

# トウネン

*Calidris ruficollis*

シギ科・旅鳥



トウネン

(イラスト：タカダヒロキ)

## 名前の由来

トウネンは「当年」で今年のこと。この鳥は体が小さく、今年生まれたばかりのシギのように見えるのでこの名がついた。漢字名：当年

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(葦原・樹林)  
鳥類

## 形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）15cm。くちばしの短い小型のシギ。夏羽では顔から首は赤褐色。頭上から体の上面は赤褐色で黒い軸斑と白い羽縁がある。胸から腹は白い。飛翔時は翼に白帯が出る。くちばしと足は黒い。冬羽は上面が褐色で黒い軸斑があり、下面は白くて胸側に褐色

斑がある。

類似種と見分け方：ヒバリシギ、オジロトウネン。

ヒバリシギは上面の茶褐色味が強く、足は黄緑色。オジロトウネンの冬羽は灰色味が強く、足は黄緑色。

## 生息環境・分布

海岸の砂浜の波打ち際や水溜り、内湾や河口部の潮干帯の干潟砂泥地、湖沼、ため池、河川の岸辺や中洲の砂泥地などに現れる。十勝には3～5月、7～11月に旅鳥として立ち寄る。

ナ川河口部、チュコト半島、アナジュール川河口部などのごく限られた地域に繁殖分布し、冬は東南アジアからニューギニア島、オーストラリア大陸に渡る。

分布：ユーラシア大陸の北極圏のハタンガ川、レナ川、ヤ

日本には旅鳥として各地の河口部や海岸近くの湖沼に多数現れる。

## 食性・他生物との関わり

浅い水域の砂泥地に生息するミミズ、ゴカイ類、甲殻類、昆虫、小貝、などの底生動物や草の種子などを食べる。猛禽類などに捕食される。

## 興味深い話

■非繁殖期には群れで生活し、渡りの時には数千羽の大群になることもある。

採餌環境として干潟などの砂泥地が必要。



撮影：千嶋淳

トウネン幼鳥。成鳥の冬羽はこれと似た色合い

## 配慮事項

採餌環境として干潟などの砂泥地が必要。

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期				■				■				
ユーラシア高緯度 (繁殖期)				■			■					
東南アジア他 (越冬期)	■										■	

繁殖の詳細は不明

## 参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)  
「原色日本野鳥生態図鑑(水鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995  
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管

理学研究室 2000

「野鳥ブックスー2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994 増補版7刷)